

古代の湖山池周辺の様子

高住平田遺跡 ～祭祀に関わる土器～

奈良時代には、湖山池南岸に面する谷あいでは人々の暮らしの痕跡が残されています。

高住平田遺跡で見つかった自然流路からは、黒い漆で「×」などの記号が描かれた奈良時代初め頃の土器が多く見つかりました。中にはまったく割れていないものもあり、不要品として廃棄したのではなく、祭祀に伴って川に流したと考えられます。この流路では、平安時代にも同じようなことが行われていたようで、割れていない土器の坏が重なった状態で見つかっています。

流路からは墨で文字が書かれた土器も見つかっていて、地形または地名を表していると思われる「深縁」と書かれたものは良田平田遺跡でも出土しています。



流路の底で漆書土器が見つかったようす



流路で見つかった墨書土器

良田平田遺跡 ～水陸交通の要衝～

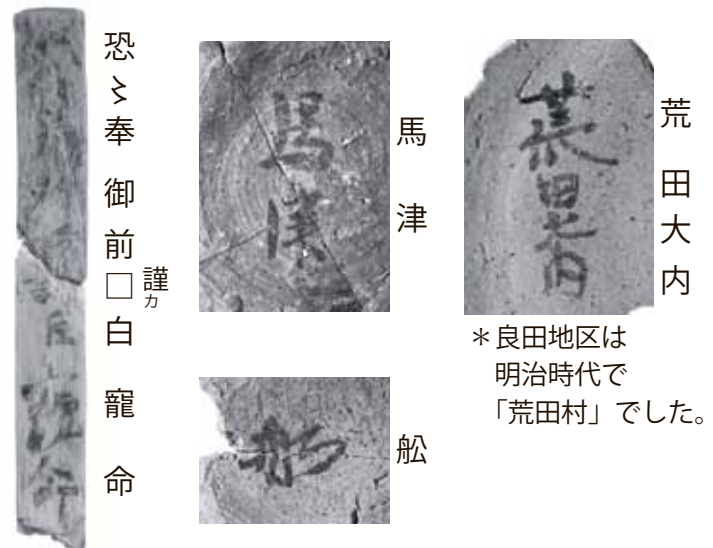
湖山池は古くから日本海を介した交易の要衝で、池の周辺では多くの遺跡があります。

湖山池の南岸にある良田平田遺跡は、池につながる谷に取り付く小さな谷に奈良時代から平安時代の建物が建てられ、文字が書かれた土器や木簡、人形などの木製祭祀具が出土しています。

見つかった建物はあまり大きなものではありませんが、都から派遣された役人など高い身分の人に上申する内容が書かれた「前白木簡」が出土したことから、ここにあった施設が公的で重要な施設だったことがうかがい知れます。また、土器に書かれた文字には「船」や港を表す「津」から湖山池を介した水運を、「馬」から施設の近くを通過していたと思われる古代山陰道との関わりが考えられます。



遺跡周辺を南西上空から見た写真



出土した木簡と墨書土器

* 良田地区は明治時代で「荒田村」でした。



高草郡における主な古代遺跡（『良田平田遺跡』2014 から引用、一部改変）

高庭荘と大桝遺跡

千代川の西側には、奈良時代から平安時代にかけての東大寺の荘園「高庭荘」がありました。小字や今に残る土地区画などから、荘園があった当時の地割が推定されています。

高庭荘の水田は平野に分散していて、水田の近くには自然流路の痕跡が見られます。水田に適しているだけでなく、川を利用した水運の利便性を考慮して水田開発が行われたと考えられます。

大桝遺跡があるあたりはその中でも水田がまとまってあったと考えられます。この水田が集中する部分の西側に平安時代初め頃の建物群が見つかっていて、荘園を開発、運営するための施設だった可能性があります。



遺跡周辺を北東方向から撮影した写真



平安時代初め頃の掘立柱建物群

中世の湖山池周辺のようす

湖山池は中世になってからも天然の良港だったと考えられ、池の東岸の溝口（現在の鳥取大学の西側）や布施（当時は「布施」）に近江の商人や門徒が移り住んだことが文献から分かっています。また、布施には天台系寺院である清冷院や日吉神社が建てられ、門前町としても栄えていたようです。

室町時代の終わり頃になると、政治の中心地である守護所が岩美町にある二上山城から天神山城へ移されます。守護所はすでに栄えている港や町の近くに置かれることが多く、このことから当時繁栄していたことがうかがえます。



中世の湖山池周辺の城跡と町

